

年初から高品質リンゴ生産に向けて剪定会

鶴田地区りんご支会連絡協議会などが1月4日（木）、町役場近くのリンゴ園で高品質リンゴ生産に向けた「りんご剪定会」を行いました。

剪定会は毎年この時期行われ、弘前市のリンゴ生産者・福澤亮一さんが講師を務めました。福澤さんは日当たりや枝の生長を計算して、ノコギリなどで枝を切り落とし「食味、玉伸びなど、自分が目指したいリンゴを想定して質の良い枝を残す」などと解説しながら剪定を実演していました。



町のリンゴ農家に剪定方法を指導する福澤さん



鶴田御膳を食べるお客さんと御膳の説明をする会員

町食材のおいしさ知ってほしい鶴田御膳

町内の農家有志でつくる「華の会」(瀬戸ひとみ代表)は1月8日（月・祝）に、鶴田町産の食材をふんだんに使った「鶴田御膳」を道の駅つるたで提供しました。

2020年に始まった鶴田御膳の提供はコロナ禍の22年を除き毎年この時期に実施しています。メニューは地元の肉や野菜、山菜を使った料理のほか、「すしこ」といった郷土料理、さらにスチューベンとリンゴのデザートなど13品が提供されました。

代表の瀬戸さんは「みなさんおいしいと言って食べてくれてうれしいです。これからも地元の食材のおいしさを伝えていきたいです」と話していました。

能登半島地震 被災地へ職員などを派遣

鶴田町は、令和6年能登半島地震の被災地支援のために町職員1名を派遣しました。派遣職員は富山県射水市で1月19日（金）～25日（木）の期間、被災家屋の家屋調査および罹災証明発行業務に従事しました。

また1月17日（水）には、防災などに関する協定を結んでいる「公益財団法人B&G財団」からの要請を受けて、能登半島地震で被災した石川県七尾市に、町所有のスライドダンプカー1台を貸し出しました。



被災地支援に向けて出発したスライドダンプカー



Vol.63 (筆：毛利精悟)

津軽ぶどう村では経理やホームページの管理、業者とのやり取りなど、担当業務が広がってきました。町として参加した東京都庁での即売会では、用意したスチューベンがあっという間に売り切れ！皆さん甘さや価格に驚いていました。まだまだ伸びしろがあると確信しました。

また、協力隊仲間に誘われて中泊町の「金多豆蔵大会」に出場し、特別賞をいただきました(写真)。

そのほかに松屋銀座との協力で津軽の新ブランド『津軽たんげ』企画に参加し、東京のど真ん中で商売してきました。1月末には有楽町の「青森冬のくらしセミナー」に相談員として参加しました。そして、2月24日は町国際交流会館から津軽地域の協力隊と共に移住者向けのインターネット中継を計画中です。

予定は目白押しですが、プライベートでは車とバイクが大好きなので、現在空き家と車庫を探しています。情報求む(笑)



右
上
津軽ぶどう村
中泊町・金多豆蔵大会
左
下
津軽ぶどう村
中泊町・金多豆蔵大会
東京都庁でのPR



Facebook



Instagram

地域おこし協力隊の活動内容は、各種SNSでも確認することができます。

新年の五穀豊穡を願い「弥生画」奉納

山道町内会

12月30日、山道町内会（一戸雅人会長）がくろがね神社に2つの弥生画を奉納しました。

山道町内会では、毎年大小2つの弥生画を奉納しており、今回の題材は2024年大河ドラマの主人公「紫式部」。約20種類の穀物の種を使用して、十二単ひつじまんの模様や黒髪を繊細に表現していました。また、町内の子どもたちが中心となり、勢いよく宙を舞う龍にまたがる「竜の子太郎」が制作されました。

町内会の人たちは2つの弥生画を鳥居に取り付けた後、鳥居の下で奉納を祝っておはよしの演奏を行い、神社にお参りを行いました。

制作の中心人物である澁谷信一さんは「十二単など細かい表現が大変でしたが、いい出来栄えになりました。新年の豊作とみんなの健康を願っています」と話していました。



△山道町内会の弥生画「紫式部」



△山道町内会の子どもたちによる弥生画「竜の子太郎」

元町弥生会

12月31日、元町弥生会（吉田亘会長）が鶴田八幡宮に弥生画を奉納しました。

元町弥生会の題材は、新年の干支にちなんだ「親子龍」。11月中旬から、会員らが黒豆や小豆、コメなど10数種類の穀物を貼り付け、新年の干支である2頭の勇ましい「辰」を描きました。

当日はトラックに完成した弥生画を乗せて、町内を回り地域住民に披露。その後、会員らが神社の鳥居に弥生画を取り付けました。吉田会長は「2023年は記録的な猛暑で農作物も被害を受けた。新年は穏やかな一年になってくれることを願っている」と話していました。



△元町弥生会の弥生画「親子龍」

今月のライス☆シェアメニュー

市販のモノでもかわいく！

ちらし寿司 (かずうきん投稿)



飾り方を工夫すると
お花みだいになるんだね。
イチゴ大福も、市販の大福に
イチゴを加えたものなんだって！
ひな祭りにぴったりだね！



メニューを募集中

町では、お米のさらなる消費拡大・地産地消のため、お米を使った料理の投稿を募集しています。

ライス☆シェアにご協力いただける方は、

産業課農業振興班
(nousin@town.tsuruta.lg.jp)

まで下記事項をご記入のうえ、メールを送信してください。

- ①氏名（ハンドルネーム可）
- ②料理写真
- ③一言ポイント

広報に掲載されたら、
町からつるりんグッズを
プレゼント♪



▲詳細はこちらより
ご確認ください